

青梅市文化財ニュース

第400号

令和3年2月15日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土博物館(青梅市駒木町 1-684 ☎0428-23-6859)

早春の青梅永山丘陵周辺バードウォッチング

青梅永山丘陵はJR青梅駅の北側からJR軍畑駅の北側にある雷電山(494m)まで続く4時間ほどのハイキングコースです。今回は青梅永山丘陵を第2休憩所まで歩き、風の子・太陽の子広場をまわる約2時間の探鳥コースを紹介します。丘陵の中でも300m弱の比較的歩きやすく整備された道なので初心者の方にもお勧めです。

JR青梅駅を東(左)へ進み十字路を北(左)へ向かう坂道を登りきると、右手に青梅鉄道公園が見えてきます。明治・大正時代に活躍した蒸気機関車をはじめ、国の重要文化財に指定された青梅線・五日市線・南武線で主に石灰石の貨物列車を運んだ昭和初期の国産電気機関車などが展示されています。

青梅鉄道公園を右手に見ながら左へ向かうとハイキングコース入口です。このあたりから野鳥のさえずりが聞こえてきます。「ピチュピチュピチュ…」シジュウカラの声です。「ピーチュチュ、ピーチュチュ、ピーチュチュ」ヤマガラの声です。「ギーッキッキッキ…」コゲラの声です。「チュー…チューイー…」メジロもいます。種類の違う小鳥たちが一緒に行動しています。秋から冬にかけてよく見られる^{こんぐん}混群と言います。繁殖が始まるまで混群で生活しています。

更に小さな声も聞こえます。「チューイン…チューイン」マヒワの声です。マヒワは冬鳥で、10月から3月くらいまでの間は低地や低山で過ごし、多くは中国北部へと渡り繁殖します。また少数が北海道や本州中部山地で繁殖します。毎年日本に渡ってくる数の差が大きく、全く見られない年とにぎやかな年とがあります。今季の冬は多くが渡ってきたようでハンノキ類の実を食べる姿が見られます。

第1休憩所では塩船観音の観音像が正面に見えます。天気良ければ北方向に筑波山が見え、東方向には都心部が見られます。景色と一緒にタカ類を探しましょう。トビ、オオタカ、ノスリ、ハイタカ、ハヤブサなど飛んでいる可能性があります。

第2休憩場手前右側に「青梅の森」の看板が見えてきます。右に入っていくと「ピョーッピョーッ」と大きな声がします。「タララララ…」ドラミングも聞こえます。ヒヨドリと同じくらいの大きさのアオゲラです。冬場は「コツコツコツ…」と小さな音を出して幹を掘って虫を探します。早春からドラミングを始めて繁殖の相手を探します。テリトリーを宣言する合図でもあります。

展望広場を過ぎると四つ角に出ます。左は青梅の森のおにぎり岩方向、右は風の子・太陽の子広場です。まっすぐ進むとアップダウンの多い尾根道コースです。ここは右に折れて階段を下りて行きます。突き当たりを左へ行きます。右側の藪の中には多くの野鳥が隠れています。「チッ…チッ…チッ…」アオジです。もう少し小さな声はカシラダカです。「チリリリ…チリリリ…」ホオジロです。「ヒッヒッヒッ」ルリビタキとジョウビタキです。暖かい日にはそれぞれのさえずりも聞くことができますが、普段は小さく似たような「チ」の地鳴きをするのがこのエリアの小鳥たちです。バードウォッチングは目で探すのではなくまず耳で探します。声のする方向を目で探し、何か動く物を見つけたら双眼鏡で探します。人が通ると小鳥たちは黙ってしまうので静かにじっとしているとまた安心して動き始めます。

左手にはキャンプ場があります。見通しのよい所が好きなモズが枝に止まっています。枝の上から地面を見て獲物を探しています。トイレを過ぎると広場が見えてきます。耳を澄ますと「ガサッガサッ…」と枯葉の音が聞こえます。シロハラが葉っぱをひっくり返しながらかを探索しています。もしかしたらツグミかもしれません。池から「キッキキッキ…」と声がしたらカワセミがいるかもしれません。

風の子・太陽の子広場を出ると水路に沿って右へ向かいます。水路にセグロセキレイ、キセキレイなどがいますので探しましょう。次の三叉路を右に向かえばスタート地点の青梅鉄道公園です。

* 3月頃に見られる野鳥 *

キジバト、トビ、ハイタカ、オオタカ、ノスリ、カワセミ、コゲラ、アカゲラ、アオゲラ、ハヤブサ、チョウゲンボウ、リュウキュウサンショウクイ、モズ、カケス、ハシブトガラス、ヤマガラ、ヒガラ、シジュウカラ、イワツバメ、ウグイス、エナガ、メジロ、ミソサザイ、トラツグミ、シロハラ、ツグミ、ルリビタキ、ジョウビタキ、キセキレイ、ハクセキレイ、セグロセキレイ、ビンズイ、カワラヒワ、マヒワ、ベニマシコ、ウソ、シメ、イカル、ホオジロ、カシラダカ、アオジ、クロジなど。



マヒワ 12 cm
スズメ目/アトリ科



アオゲラ 29 cm
キツツキ目/キツツキ科



ヤマガラ 14 cm
スズメ目/シジュウカラ科

(文責 荒井悦子)